グループの管理と監視

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/health-checker/concept_what_group_is.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

グループの管理と監視 1
- グループを理解する 1
  - Active IQ Unified Manager のグループについて学ぶ 1
  - Active IQ Unified Manager におけるグループのグループルールの仕組みを理解する 1
  - Active IQ Unified Manager におけるストレージオブジェクトに対するグループアクションの仕組みを理解する 3
- Active IQ Unified Manager でグループを追加する 4
- Active IQ Unified Manager でグループを編集する 4
- Active IQ Unified Manager でグループを削除する 5
- Active IQ Unified Manager でグループルールを追加する 5
  - グループ ルールの作成例 6
- Active IQ Unified Manager でグループルールを編集する 7
- Active IQ Unified Manager でグループルールを削除する 7
- Active IQ Unified Manager でグループアクションを追加する 7
- Active IQ Unified Manager でグループアクションを編集する 8
- Active IQ Unified Manager でグループのボリューム健全性しきい値を設定する 8
- Active IQ Unified Manager でのグループアクションの削除 9
- Active IQ Unified Manager でグループアクションの順序を変更する 9

グループの管理と監視

グループを理解する

Active IQ Unified Manager のグループについて学ぶ

グループとは、異種ストレージオブジェクト（クラスタ、SVM、ボリュームなど）の動的な集合体です。Unified Managerでは、グループを作成することで、一連のストレージオブジェクトを簡単に管理できます。グループのメンバーは、Unified Managerがその時点で監視しているストレージオブジェクトに応じて変化する可能性があります。

- グループごとに一意の名前を付けます。
- グループごとに少なくとも1つのグループ ルールを設定する必要があります。
- 1つのグループを複数のグループ ルールに関連付けることができます。
- 1つのグループに複数の種類のストレージ オブジェクト（クラスタ、SVM、またはボリューム）を含めることができます。
- ストレージオブジェクトは、グループルールが作成された時、またはUnified Managerが監視サイクルを完了した時に、グループに動的に追加されます。
- グループ内のすべてのストレージ オブジェクトに同じ処理（ボリュームのしきい値の設定など）を同時に適用することができます。

Active IQ Unified Manager におけるグループのグループルールの仕組みを理解する

グループ ルールとは、ストレージ オブジェクト（ボリューム、クラスタ、またはSVM）を特定のグループに追加する基準を定義したものです。グループのグループ ルールは、条件グループまたは条件を使用して定義します。

- グループには必ずグループ ルールを関連付ける必要があります。
- グループ ルールにはオブジェクト タイプを関連付ける必要があります。関連付けることができるオブジェクト タイプは1つだけです。
- グループに対してストレージ オブジェクトが追加または削除されるのは、各監視サイクルの完了後、およびルールの作成、編集、削除時です。
- グループ ルールには1つ以上の条件グループを、各条件グループには1つ以上の条件を含めることができます。
- ストレージ オブジェクトは、作成されたグループ ルールに基づいて複数のグループに属することができます。

Conditions

複数の条件グループを作成し、各条件グループに1つ以上の条件を含めることができます。グループのグループ ルールに定義されたすべての条件グループを適用して、グループに含めるストレージ オブジェクトを指定することができます。

条件グループに含まれる条件は論理ANDを使用して実行され、条件グループのすべての条件を満たす必要が

あります。条件はグループ ルールを作成または変更すると作成され、条件グループのすべての条件を満たすストレージ オブジェクトのみが適用、選択、およびグループの対象となります。グループに含めるストレージ オブジェクトの範囲を限定するには、条件グループで複数の条件を使用します。

次のオペランドと演算子を使用して必要な値を指定することで、ストレージ オブジェクトの条件を作成できます。

ストレージオブジェクトタイプ	適用可能なオペランド
Volume	• オブジェクト名 • 所有クラスタ名 • 所有SVM名 • アノテーション
SVM	• オブジェクト名 • 所有クラスタ名 • アノテーション
クラスタ	• オブジェクト名 • アノテーション

ストレージオブジェクトのオペランドとして注釈を選択すると、「Is」演算子が使用可能になります。その他のオペランドについては、演算子として「Is」または「Contains」のいずれかを選択できます。

- オペランド

  Unified Managerにおけるオペランドのリストは、選択されたオブジェクトタイプに基づいて変化します。このリストには、オブジェクト名、所有クラスタ名、所有SVM名、およびUnified Managerで定義した注釈が含まれます。

- 演算子

  演算子のリストは、条件式で選択されたオペランドに基づいて変化します。Unified Managerでサポートされている演算子は「Is」と「Contains」です。

  「Is」演算子を選択すると、条件はオペランドの値が選択されたオペランドに指定された値と完全に一致するかどうかについて評価されます。

  「Contains」演算子を選択すると、条件は次のいずれかの基準を満たすかどうか評価されます。

  - 選択したオペランドの値が指定した値と完全に一致する。
  - 選択したオペランドの値に指定した値が含まれる。

- Value

  値のフィールドは、選択したオペランドによって変わります。

条件を使用したグループ ルールの例

ボリュームに対する条件グループで、次の2つの条件が定義されているとします。

- 名前に「vol」が含まれています
- SVM名は「data_svm」です。

この条件グループは、名前に「vol」が含まれ、かつ「data_svm」という名前のSVM上でホストされているすべてのボリュームを選択します。

条件グループ

条件グループは論理ORを使用して実行され、ストレージ オブジェクトに適用されます。ストレージ オブジェクトがグループに追加されるためには、いずれかの条件グループを満たす必要があります。いずれかの条件グループを満たすすべてのストレージ オブジェクトがグループにまとめられます。条件グループを使用して、グループに含めるストレージ オブジェクトの範囲を広げることができます。

条件グループを使用したグループ ルールの例

ボリュームに対する2つの条件グループで、各グループにそれぞれ次の2つの条件が定義されているとします。

- 条件グループ1
  - 名前に「vol」が含まれています
  - SVM 名は「data_svm」です。条件グループ 1 は、名前に「vol」が含まれ、名前が「data_svm」の SVM でホストされているすべてのボリュームを選択します。
- 条件グループ2
  - 名前に「vol」が含まれています
  - data-priority の注釈値は「critical」です。条件グループ 2 は、名前に「vol」が含まれ、data-priority 注釈値が「critical」として注釈付けされているすべてのボリュームを選択します。

これらの2つの条件グループを含むグループ ルールをストレージ オブジェクトに適用した場合、選択したグループに次のストレージ オブジェクトが追加されます。

- 名前に「vol」が含まれ、かつ「data_svm」という名前のSVM上でホストされているすべてのボリューム。
- 名前に「vol」が含まれ、データ優先度注釈値「critical」が付与されているすべてのボリューム。

Active IQ Unified Manager におけるストレージオブジェクトに対するグループアクションの仕組みを理解する

グループ操作は、グループ内のすべてのストレージ オブジェクトに対して実行される処理です。たとえば、ボリュームしきい値のグループ操作を設定して、グループ内のすべてのボリュームのしきい値を同時に変更できます。

グループごとに一意のグループ操作タイプがサポートされます。ボリューム健全性しきい値タイプのグループ操作は1つのグループに1つしか設定できません。ただし、他のタイプであれば、同じグループに別のグループ操作を設定できます。グループ操作がストレージ オブジェクトに適用される順序は操作のランクで決まります。ストレージ オブジェクトに適用されるグループ操作の情報は、ストレージ オブジェクトの詳細ページで確認できます。

一意なグループ操作の例

ボリュームAがグループG1とG2に属しており、各グループに次のボリューム健全性しきい値グループ操作が設定されているとします。

- `Change_capacity_threshold`ランク1のグループアクションで、ボリュームの容量を設定します。
- `Change_snapshot_copies`ボリュームのスナップショットコピーを構成するための、ランク2のグループアクション

> `Change_capacity_threshold`グループアクションは常に`Change_snapshot_copies`グループアクションより優先され、ボリューム A に適用されます。Unified Manager が監視の 1 サイクルを完了すると、ボリューム A のヘルスしきい値関連イベントが`Change_capacity_threshold`グループアクションに従って再評価されます。G1 グループまたは G2 グループのいずれに対しても、別のボリュームしきい値タイプのグループアクションを設定することはできません。

Active IQ Unified Manager でグループを追加する

クラスタ、ボリューム、およびStorage Virtual Machine（SVM）を管理しやすいように、グループを作成して1つにまとめることができます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

グループ ルールを定義して、グループのメンバーを追加または削除したり、グループに対するグループ操作を変更したりできます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ *グループ*をクリックします。
2. 「グループ」タブで、「追加」をクリックします。
3. 「グループの追加」ダイアログボックスで、グループの名前と説明を入力します。
4. *[追加]*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でグループを編集する

Unified Managerで作成したグループの名前と説明を編集できます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

グループを編集して名前を更新するときは、一意の名前を指定する必要があります。既存のグループの名前は使用できません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ *グループ*をクリックします。
2. 「グループ」タブで、編集するグループを選択し、「編集」をクリックします。
3. 「グループの編集」ダイアログボックスで、グループの名前、説明、またはその両方を変更します。
4. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でグループを削除する

不要になったグループは、Unified Managerから削除できます。

開始する前に

- 削除するグループのグループ ルールに関連付けられたストレージ オブジェクト（クラスタ、SVM、またはボリューム）がないことを確認する必要があります。
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ *グループ*をクリックします。
2. 「グループ」タブで、削除するグループを選択し、「削除」をクリックします。
3. 『警告』ダイアログボックスで、「はい」をクリックして削除を確定します。

   グループを削除しても、グループに関連付けられているグループ操作は削除されませんが、マッピングは解除されます。

Active IQ Unified Manager でグループルールを追加する

グループのグループ ルールを作成して、ボリューム、クラスタ、Storage Virtual Machine（SVM）などのストレージ オブジェクトを動的にグループに追加することができます。グループ ルールを作成するには、1つ以上の条件を含む条件グループを少なくとも1つ設定する必要があります。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

監視中のストレージ オブジェクトは、グループ ルールを作成後すぐにグループに追加されます。新しいオブジェクトは、監視サイクルの完了後にグループに追加されます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ *グループ*をクリックします。
2. 「グループルール」タブで、「追加」をクリックします。
3. 「グループルールの追加」ダイアログボックスで、グループルールの名前を指定します。
4. *対象オブジェクトタイプ*フィールドで、グループ化するストレージオブジェクトの種類を選択します。
5. 「グループ」フィールドで、グループルールを作成する対象となる必要なグループを選択してください。

6. *条件*セクションで、以下の手順を実行して、条件、条件グループ、またはその両方を作成します。

作成するには...	操作
条件	a. オペランドのリストからオペランドを選択します。 b. 演算子として「含む」または「である」のいずれかを選択してください。 c. 値を入力するか、使用可能な値のリストから選択します。
条件グループ	a. **Add Condition Group** をクリックします。 b. オペランドのリストからオペランドを選択します。 c. 演算子として「含む」または「である」のいずれかを選択してください。 d. 値を入力するか、使用可能な値のリストから選択します。 e. 必要に応じて*Add condition*をクリックして条件を追加し、各条件について手順a～dを繰り返してください。

7. *[追加]*をクリックします。

グループ ルールの作成例

グループ ルールを作成し、条件の設定と条件グループの追加を行うには、[グループ ルールの追加]ダイアログ ボックスで次の手順を実行します。

手順

1. グループ ルールの名前を指定します。
2. オブジェクト タイプとしてStorage Virtual Machine（SVM）を選択します。
3. グループのリストからグループを選択します。
4. 「条件」セクションで、オペランドとして「オブジェクト名」を選択します。
5. 演算子として **Contains** を選択します。
6. 値を `svm_data`として入力してください。
7. 「条件グループを追加」をクリックします。
8. オペランドとして「オブジェクト名」を選択します。
9. 演算子として **Contains** を選択します。
10. 値を `vol`として入力してください。
11. 条件を追加 をクリックします。
12. ステップ8でオペランドとして **data-priority** を選択し、ステップ9で演算子として **Is** を選択し、ステップ10で値として **critical** を選択して、ステップ8から10を繰り返します。

13. 「追加」をクリックして、グループルールの条件を作成します。

Active IQ Unified Manager でグループルールを編集する

グループ ルールを編集して条件グループおよび条件グループに含まれる条件を変更することで、特定のグループに対してストレージ オブジェクトを追加または削除できます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 > *グループ*をクリックします。
2. 「グループルール」タブで、編集するグループルールを選択し、「編集」をクリックします。
3. 「グループルールの編集」ダイアログボックスで、必要に応じてグループルール名、関連付けられたグループ名、条件グループ、および条件を変更します。

   グループ ルールのターゲット オブジェクト タイプは変更できません。

4. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でグループルールを削除する

不要になったグループ ルールは、Active IQ Unified Managerから削除できます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

グループ ルールを削除すると、関連付けられているストレージ オブジェクトがグループから削除されます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 > *グループ*をクリックします。
2. 「グループルール」タブで、削除するグループルールを選択し、「削除」をクリックします。
3. 『警告』ダイアログボックスで、「はい」をクリックして削除を確定します。

Active IQ Unified Manager でグループアクションを追加する

グループ内のストレージ オブジェクトに適用するグループ操作を設定できます。グループの操作を設定すると、それらの操作を各オブジェクトに個別に追加する必要がないため時間を節約できます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 > *グループ*をクリックします。
2. 「グループアクション」タブで、「追加」をクリックします。
3. *グループアクションの追加*ダイアログボックスで、アクションの名前と説明を入力します。
4. 「グループ」メニューから、アクションを設定するグループを選択します。
5. *アクションタイプ*メニューからアクションタイプを選択します。

   ダイアログ ボックスが展開され、選択した操作タイプの必須パラメータを設定できます。

6. 必須パラメータに適切な値を入力して、グループ操作を設定します。
7. *[追加]*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でグループアクションを編集する

グループ操作の名前、説明、関連付けられているグループの名前、操作タイプのパラメータなど、Unified Managerで設定したグループ操作のパラメータを編集することができます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 > *グループ*をクリックします。
2. 「グループアクション」タブで、編集するグループアクションを選択し、「編集」をクリックします。
3. 「グループアクションの編集」ダイアログボックスで、必要に応じてグループアクション名、説明、関連付けられたグループ名、およびアクションタイプのパラメーターを変更します。
4. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でグループのボリューム健全性しきい値を設定する

ボリュームの容量、Snapshotコピー、qtreeクォータ、増加率、およびinodeについて、グループレベルで健全性しきい値を設定することができます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

ボリューム健全性しきい値タイプのグループ操作は、グループのボリュームにのみ適用されます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 > *グループ*をクリックします。
2. 「グループアクション」タブで、「追加」をクリックします。
3. グループ操作の名前と説明を入力します。

4. グループ ドロップダウンボックスから、グループアクションを設定するグループを選択します。
5. ボリュームの状態しきい値として **Action Type** を選択します。
6. しきい値を設定するカテゴリを選択します。
7. 健全性しきい値の必要な値を入力します。
8. *[追加]*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でのグループアクションの削除

不要になったグループ操作は、Unified Managerから削除できます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

ボリューム健全性しきい値のグループ操作を削除すると、そのグループのストレージ オブジェクトにグローバルしきい値が適用されます。ストレージ オブジェクトに対して設定されたオブジェクトレベルの健全性しきい値には影響はありません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ *グループ*をクリックします。
2. 「グループアクション」タブで、削除するグループアクションを選択し、「削除」をクリックします。
3. 『警告』ダイアログボックスで、「はい」をクリックして削除を確定します。

Active IQ Unified Manager でグループアクションの順序を変更する

グループ操作をグループ内のストレージ オブジェクトに適用する順序を変更することができます。グループ操作は、ランクに基づいてストレージ オブジェクトに順番に適用されます。グループ操作には、設定した時点では最も低いランクが割り当てられます。要件に応じてグループ操作のランクを変更することができます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

単一の行または複数の行を選択し、ドラッグ アンド ドロップ操作を繰り返し行って、グループ操作のランクを変更することができます。ただし、変更後の優先順序は変更を保存するまでグループ操作のグリッドに反映されません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ *グループ*をクリックします。
2. 「グループアクション」タブで、「並べ替え」をクリックします。
3. 『グループアクションの並べ替え』ダイアログボックスで、行をドラッグアンドドロップして、必要に応じてグループアクションの順序を並べ替えます。
4. *保存*をクリックします。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。